

2007年11月1日
東日本旅客鉄道(株)

2008年3月期中間決算説明会 主なQ&A

Q: 修繕費の計画変更について、尋ねたい。今回の業績修正で、120億円増額して2,320億円としたが、鉄道収益が増えたからコストを増やしたのか。また、「ニューフロンティア 2008」の期間中は「基本的には2,200億円をベースとする」とのことだが、これまでも「ニューフロンティア 2008」の期間で、2,000億と話していたベースが2,200億に切り上がった経過からして、数年後に突然何百億も増えるリスクはあるのか。

A: 収入が増えたということは必要条件ではあるが、十分条件ではない。収入が増えたことも利用して、本来施工しなかった修繕を行うものであり、120億の具体的な中身としては安全・安定輸送のための修繕、サービス改善のための修繕などである。事柄の性質上、定量的に説明がしづらいところもあるが、基本的にはコストパフォーマンスの高いところ、優先順位の高いところから順次投入し、お客さまにとってさらに利便性、安定性、安全性の高い鉄道にしていきたい。修繕費は先送りすればするほど、100で済んだものが110あるいは120必要になる性格のものであり、資金等の色々な手当てがつかないのであれば早く行ったほうが良いと考えている。今回の120億の増は唐突に感じられたかもしれないが、キャッシュがある、施工能力が十分ついてくるなど客観情勢が許すのであれば、一番効果があるときに施工したいと考えており、ご理解を賜りたい。

また、ベースが切り上がった背景としては、昨今、当社も含めて鉄道の事故や輸送障害など交通機関でのトラブルにより、安全や安心に対するお客さまサイドのニーズが非常に高まっていることも挙げられる。トラブルを未然に防ぐためにも修繕費を前倒して投じ、結果的に、お客さまが安心してご利用できるような安定した輸送サービスを提供しようという方向に、軸足を動かしてきたということである。

Q: 地方の不採算鉄道や駅ビルについて、今後どのような方針で臨むのか。

A: 国鉄から引き継いだ営業線については出来るだけ活性化を図り、効率化を進めるなかで路線の維持に極力努めてまいりたいと考えている。ただ、ローカル線全体を取巻く環境は私共に限らず多くの鉄道事業者が抱えている非常に大きな問題であり、その方向性については私共も次の経営構想のテーマのひとつとして部内で検討を進めているし、国もそのスキームについて勉強していると伺っている。地方の駅ビルも総じて厳しい状況にあるが、経営環境に応じて個別の増収策、支援策を講じていかなければならないと考えている。

Q：この半年で Suica のご利用可能店舗数がかかなり増えているが、現況はどうか。収支について開示できるものはあるか。

A：Suica のご利用可能店舗数は 23,000 近くまで増え、一日のご利用件数も 80 万件を超えており、当初見込みどおりの軌道に乗ってきつつあると考えている。しかし、電子マネーのご利用にかかる収入は対前年での伸び率は大きいものの絶対額は非常に小さいので、今の段階では開示できる状況にない。もう少しお待ちいただきたい。

Q：配当の考え方について、従前は「ニューフロンティア 2008」の数値目標である「D/E レシオ 2 倍」を達成できた後に再考することだが、今期末にもその目標に近い数値に達しそうである。「ニューフロンティア 2008」の最終年度と言わず、今期末にでも考え方を变える可能性はあるか。

A：次の経営構想にかかる話なので、この場でお答えする材料は持ち合わせていない。ただ、私共の株主還元について、皆様からも色々なご意見を頂戴していることは十分承知しており、それらを参考にしながら、次の経営構想やビジョンの議論にあたっているということを申し上げておきたい。

Q：JR 東海がリニア新幹線の建設に向けて色々な検討していることは公表済である。これに際して東京の出発点をどこに置くかが重要となるが、首都圏の基盤をもっている当社と何か話はあるのか。あるいは、当社として本件に係わっていきたいかについて、コメントがあればお願いしたい。

A：リニアの構想については、私共は報道で伝えられていることしか知らず、特に JR 東海から話はない。したがって、特段、コメントすることもない。

以上